令和元年度　　学力向上プラン（8月）

大分市立敷戸小学校

1．学力向上に関する重点目標

★自信をもつ子（勉強にがんばる子）
～確かな学力（基礎・基本・活用能力）の定着、向上～

2．学力の実態

令和元年度「5年生大分県学力定着状況調査」の分析

国語

○問題の内容別正答率では、「説明文の内容を読み取る」以外の項目で、目標値を上回っている。特に、「言葉の学習」や「作文」では、10ポイント以上の差があり大幅に上回っている。
○領域別、観点別でも、「読むこと」及び「読む能力」以外で、県の数値を上回っている。特に、「書くこと」「書く能力」については顕著である。
○物語文の読み取りについては、問題の内容別正答率において、目標値は超えているが、**説明文の読み取りについては、目標値を下回っている。**領域別、観点別にみたときに、**「読むこと」「読む能力」について課題があると言える。**
○「読むこと」「読む能力」について具体的に見ていくと、物語文では、場面の様子や登場人物の気持ちの読み取りが、説明文では、文章の内容を的確に読み取ること、**段落のまとまりを理解して読み取ることが十分できていないと言える。**

算数

○問題別正答率では、「面積」「折れ線グラフと表」以外の項目で目標値を上回っている。10ポイント以上上回っている項目も多い。
○領域別、観点別正答率では、すべての項目で目標値を上回っているが、領域別の**「量と測定」「数量関係」及び観点別の「数学的な考え方」については、県の正答率には及ばなかった。**
○複合図形における求積の仕方や図から式を導き出すこと、伴って変わる2つの数量の関係を式に表すこと、**図形やグラフの特徴をもとに理由を説明すること等に弱点**が見られる。式があらわす意味や図形の性質・グラフの読み取り等の指導に重点を置いていく必要がある。

理科

○問題別、領域別、観点別正答率の各項目で目標値を上回っている。
○問題別の「水のすがた」については、目標値は上回っていたものの、県の正答率にはわずかながら及ばなかった。
○課題をしっかりとらえ、観察や実験を行ってきたこと、結果を整理し考察してきたこと等が技能や知識の定着に表れている。

令和元年度「6 年生全国学力・学習状況調査」の分析

国語
〇平均正答数は、全国、県と比べて上回っている。
〇領域別では、すべての領域（話聞、読、書、伝国）で、全国、県の平均値を上回っている。
〇観点別でも、すべての観点で上回っており、特に「言語についての知識・理解・技能」において著しい。
〇問題別では、漢字を使って書き直す問題において、正答率は高いものの、無回答率もやや高い傾向にある。

算数
〇平均正答数は、全国、県と比べて上回っている。
〇領域別では、図形を除く領域（数と計算、量と測定、数量関係）で、全国、県の平均値を大きく上回っている。
〇観点別でも、すべての観点で上回っている。
〇問題別では、図形やグラフの問題において、全国、県の平均値をやや下回ったが、そのほかのすべての問題で上回っており、無回答率も0であった。

3. 目指す子ども像（達成指標）

①単元末テストにおいて、８０点以上の児童の割合を９０%以上にする。
②「家庭での勉強時間」を守れた児童の割合を９０%以上にする。

達成に向けてのキーワード（個人差・定着・習慣）

①どうやって個人差をうめるか
②どうやって定着をはかるか
③どうやって習慣化するか

4. 今後の具体的な進め方

【個人差をうめる取り組み】…新大分スタンダードの充実

【定着をめざした取り組み】…学習指導の充実

★板書の構造化，ノートと板書の一体化
- ねらいに迫る「問い」の工夫
- 「課題(めあて)」と連動したまとめが板書に位置付いた「1 時間完結型」授業
- ゴールがイメージできる「課題（めあて）の提示

★「主体的・対話的で深い学び」の取り組み
- 知識の定着とそれを用いた活用場面の設定
- ペアやグループでの相談や教え合い活動の推進
- 探求型課題の追求

★自尊感情の育成・生徒指導の三機能の活用
- 自己決定　課題に対して探究し自分の考えを持つ
- 自己存在感　みんなに発信し成果を実感させる
- 共感的人間関係　認め合い・新しい考えの創造を図る

★習熟の程度に応じたきめ細かい指導

※新大分スタンダード
①1 時間完結型授業
②板書の構造化・板書とノートの一体化
③習熟の程度に応じたきめ細かい指導の充実
④問題解決的な展開の授業

①重点的取組	授業改善の継続と互見授業・校内研修の充実をはかる
②取組指標	○「課題」と「まとめ」のある１時間完結型の授業の実施率を９０％以上にする
③2部会プラン（毎月の振り返り自己評価項目）	「めあて・振り返り」「課題・まとめ」のある授業に取り組む
	１時間の思考の流れがわかるように整理された板書のある授業に取り組む
	算数や国語でミニテストやふりかえり問題を活用した授業の徹底
	発達の段階に合った「話し方・聞き方１・２・３」指導の徹底
	黒板カーテンの利用、前面黒板・前面掲示の整理の徹底

※算数の複数指導により学力の定着を目指す

※算数や国語でミニテストやふりかえり問題を活用した授業の徹底

（1 点突破で強化）

※金曜日「朝の活動」時のプリントやり直し指導

【習慣化をめざした取り組み】…家庭学習の充実・家庭との連携

①重点的取組	○家庭学習の指導の徹底と家庭との連携をはかる ○読書活動を通して、豊かな心の育成と読解力の向上を図る
②取組指標	○家庭学習習慣(学年×10 分+20 分)の実施率を 90%以上にする ○図書館等を利用することで、各学年の読書目標の達成率が９０％以上になるように取り組む
③2部会プラン（毎月の振り返り自己評価項目）	「学習時間記録カード」の活用と月末チェックの徹底
	読書（一か月：一人）目標が達成できるように指導の徹底・・・本を毎日必ず持って帰る 9冊以上（1．2年）、6冊以上（3．4年）、4冊(６００ページ）以上（5．6年）
	月に１回以上、学年通信で家庭学習「学年×10 分＋２０」がきちんとできているかどうか、また、家庭学習の手引きについての活用をうながす発信を行う。

【その他の取り組み】…自尊感情の育成

①重点的取組	○発達の段階に応じた体験活動を実施し、帰属感等を高める ○児童の様子や実態把握を通して、居場所のある集団づくりを行う ○学校と家庭との連携を密にし、不登校児童の削減を図る。
②取組指標	○学級等でエンカウンターの月１回以上の実施率を 80%以上にするとともに、いじめ解消率が 100%になるようにする。 ○１年～3年生では、「自分は大切にされていると思う」児童の割合を 90%以上にし、4年～6年は QU 検査の要支援ぐんの出現率を５%以下にする ○・いじめによる不登校児童数を0に、それ以外の不登校児童出現率を 1.57%以下にする。
③2部会プラン（毎月の振り返り自己評価項目）	各学年、月１回以上のエンカウンターを取り入れた活動を行う
	常時、生活や授業の中で、認め合い・ほめ・励ます場をつくる
	子どもの話や発表を最後まで聞く
	いじめや仲間外しを許さない指導の徹底といじめ解消率１００％
	「ごめんなさい」「ありがとう」「いただきます」等が言える指導の徹底